

# 十四世紀までの日本律蔵関係章疏にみられる 新羅・高麗仏教認識

福士 慈稔

## 1. はじめに

本研究は「十二世紀末までの日本各宗の新羅・高麗仏教に対する認識の研究」の一環研究として、『大正新修大蔵経』・『日本大蔵経』・『大日本仏教全書』等の活版印刷化された資料を対象とし、日本各宗の戒律関係章疏に引用される新羅・高麗諸師名、及び新羅・高麗諸師章疏の引用整理を行い、日本各宗の新羅・高麗仏教認識を窺うことを目的としたものである。14世紀までに年代を引き上げたのは12世紀末までの戒律関係章疏が極めて少ないための変更である。主研究の一環であるため浄土宗系・禅宗系、また日蓮宗等の鎌倉時代成立の宗派は対象外とするが、戒律研究を主とする真言律宗は例外として整理対象に含めることとした。

引用の確認方法としては、本人の文献整理と、それを補うために大正新修大蔵経テキストデータベースを用い、引用の追確認のためにCBETA電子仏典集成を用いることとした。

## 2. 目録類にみられる新羅諸師戒律関係章疏

日本各宗の戒律関係章疏に引用される新羅・高麗諸師章疏の整理の前に、新羅・高麗時代の戒律関係章疏を目録類で確認すると、

智明【四分律羯磨記】

慈蔵【四分律羯磨私記】【十誦律木叉記】

円勝【梵網経記】【四分律羯磨記】【四分律木叉記】

元暁【梵網経菩薩戒本私記】【梵網戒本持犯要記】【梵網経疏】【梵網経略疏】

【梵網経宗要】【四分律羯磨疏】

憬興【四分律羯磨記】【四分律拾毘尼要】

智仁【四分律六卷抄記（四分律抄）】

勝莊【梵網経菩薩戒本述記（梵網経疏）】

玄一【梵網経疏】

義寂【梵網経菩薩戒本疏（梵網経疏）】【梵網経文記】

道倫【四分律決問】

太賢【梵網経古迹記】【梵網経菩薩戒本宗要】

瑞目【梵網経記】

以上の新羅諸師の12師23部の章疏が確認される。その中で現存書はゴシック体で強調した6部である。散逸を含め高麗諸師の章疏は確認できない。

さてこれ等の章疏で『正倉院編年文書』に収録される章疏は、

元暁【梵網經菩薩戒本私記】【梵網戒本持犯要記】【梵網經疏】

智仁【四分律抄】

勝莊【梵網經疏】

義寂【梵網經疏】【梵網經文記】

太賢【梵網經古迹記】

以上の5師8部の章疏である。これ等の章疏が少なくとも8世紀中頃までに日本に将来されていたことが確認される。そしてそれ等将来されていた章疏が、914年に醍醐天皇に奏進した「五宗録」によると、『法相宗章疏』には、

義寂【梵網經疏】

太賢【梵網經古迹記】

以上の2師2部の章疏が収録され、『律宗章疏』には、

元暁【梵網戒本持犯要記】【梵網經疏】

智仁【六卷鈔記（四分律六卷鈔記）】

義寂【梵網經疏】

太賢【梵網經古迹記】

以上の4師5部の章疏が収録される。つまり法相宗及び律宗で『正倉院編年文書』にみられる8部の中で、それぞれ2部及び5部を自宗の所依章疏として奏進しているのであるが、目録類で確認される新羅諸師全体の23部という章疏数からするとその数は僅かに過ぎない。「五宗録」に収録されていない、または収録部数が少ないからといって重用されなかったとはいえないが、各宗の新羅仏教認識を窺う一端緒とはなり得ると思われる。

### 3. 日本各宗の戒律関係章疏で引用される新羅諸師名及び章疏

以下に法相宗、律宗、真言宗、真言律宗、天台宗、華嚴宗の順に『大正新修大藏經』・『日本大藏經』・『大日本仏教全書』に収録される各宗の戒律関係章疏の整理を行い、新羅・高麗諸師名、及び新羅・高麗諸師章疏の引用の有無を確認することとする。

#### (1)法相宗

整理を行った法相宗の戒律関係章疏は次の4師8部である。

##### 1 善珠 (723-797)

###### ①【表無表章義鏡】(日本大藏經11戒律宗章疏1)

1-元暁-引用1 (典拠不明)

2-円測-名及び意1

3-憬興-引用2-(典拠不明)1、(憬興散逸『法苑義林記』の可能性有り)1

②【梵網經略疏】(日本大蔵經19大乘律章疏1)

1-太賢-引用5-『梵網經古迹記』

2-義寂-引用1-『菩薩戒本疏』

2 貞慶 (1155-1213)

①【戒律興行願書】(日本大蔵經13戒律宗章疏2)-新羅諸師引用なし

②【南都叡山戒勝劣記】(日本大蔵經13戒律宗章疏2)-新羅諸師引用なし

3 良遍 (1194-1252)

①【菩薩戒通別二受鈔】(日本大蔵經13戒律宗章疏2)

1-義寂-引用2-『菩薩戒本疏』

2-太賢-引用1-『菩薩戒本宗要』

②【菩薩戒別受行否鈔】(日本大蔵經13戒律宗章疏2)-新羅諸師引用なし

③【通受軌則有難通会抄】(日本大蔵經13戒律宗章疏2)-新羅諸師引用なし

4 失名

①【表無表章頭業鈔】(日本大蔵經11戒律宗章疏1)

1-道證-引用2(典拠不明)

2-義寂-引用1-『菩薩戒本疏』、名及び意2

3-太賢-引用1-『梵網經古迹記』、名及び意1

引用がみられるのは4師4部の章疏である。「引用」の語に続く数字は引用回数である。

尚、直接引用される新羅章疏で章疏名が確認されるのは

1-義寂【菩薩戒本疏】3

2-太賢【梵網經古迹記】2、【菩薩戒本宗要】1

上記の2師3部の章疏である。章疏名に続く数字はその新羅章疏を引く各宗章疏の部数である。義寂【菩薩戒本疏】が3部の章疏に引かれることを示す。

(2)律宗

整理を行った律宗章疏は次の12師27部である。

1 法進 (709-778)

①【東大寺授戒方軌】(大正蔵74)(日本大蔵經13戒律宗章疏2)-新羅諸師引用なし

②【沙弥十戒威儀經疏】(日本大蔵經22小乘律章疏1)-新羅諸師引用なし

2 豊安 (764-840)

①【戒律伝來記】(大正蔵74)(日本大蔵經13戒律宗章疏2)-新羅諸師引用なし

## 3 元開 (779-)

- ①『鑑真過海大師東征伝』(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし

## 4 実範 (-1144)

- ①『東大寺戒壇院受戒式』(大正蔵74)(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし  
 ②『出家授戒法』(日本大蔵経15戒律宗章疏3) - 新羅諸師引用なし

## 5 俊苾 (1166-1227)

- ①『律家円宗料簡』(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし

## 6 覚盛 (1194-1249)

- ①『菩薩戒通別二受鈔』(大正蔵74)(日本大蔵経13戒律宗章疏2)  
 1-義寂-引用10-『菩薩戒本疏』、名及び意1  
 2-遁倫-引用2-『瑜伽論記』  
 3-太賢-引用8-『梵網経古迹記』7、『菩薩戒本宗要』1、名及び意1  
 ②『菩薩戒通受遣疑鈔』(大正蔵74)日本大蔵経13戒律宗章疏2)  
 1-義寂-引用2-『菩薩戒本疏』、名及び意7  
 2-太賢-名及び意1  
 ③『菩薩戒本宗要雑文集』(大正蔵74)日本大蔵経41大乘律章疏3)  
 1-遁倫-引用2『瑜伽論記』  
 2-円測-引用2、但し慧沼『成唯識論了義燈』の孫引き  
 3-憬興-引用1-散逸『瑜伽論抄』  
 ④『七仏略戒経』(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし  
 ⑤『釈迦十二礼』(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし  
 ⑥『律宗新学作持要文』(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし

## 7 叡尊 (1201-1290)

- ①『菩薩戒本宗要補行文集』(大正蔵74)(日本大蔵経41大乘律章疏3)  
 1-太賢-引用122-『菩薩戒本宗要』118、『梵網経古迹記』4  
 2-遁倫-引用1-『瑜伽論記』  
 ②『応理宗戒図釈文鈔』(大正蔵74)(日本大蔵経22大乘律章疏之餘)  
 1-遁倫-引用50-『瑜伽論記』  
 2-太賢-引用1-『梵網経古迹記』  
 \*円測の引用も5回程あるが『瑜伽論記』を引くことによって引かれたもの  
 ③『表無表章詳体文集』(日本大蔵経11戒律宗章疏1)  
 1-遁倫-引用55-『瑜伽論記』  
 2-太賢-引用1-『梵網経古迹記』

3-義寂-引用1 - 『梵網戒本疏』、但し最行(-1087-)『法苑林章集解』の孫引き

④『勸発菩提心集流壅記』(日本大蔵経11戒律宗章疏1)

1-遁倫-引用2 - 『瑜伽論記』

⑤『律宗作持羯磨』(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし

⑥『斉別受八戒作法』(日本大蔵経13戒律宗章疏2) - 新羅諸師引用なし

⑦『梵網経古迹記下巻科文輔行文集』(日本大蔵経21大乘律章疏2)(要再整理)

1-太賢-引用多数 - 『梵網経古迹記』引用多数、『菩薩戒本宗要』1

2-遁倫-引用9 - 『瑜伽論記』

3-義寂-引用3 - 『菩薩戒本疏』

\*元暁1回、義寂5回の引用がみられるが『梵網経古迹記』引用によるものであり、円測1回の引用は『瑜伽論記』引用によるもの

⑧『菩薩戒羯磨文釈文鈔』(日本大蔵経22大乘律章疏之餘)

1-遁倫-引用8 - 『瑜伽論記』

2-太賢-引用1 - 『菩薩戒本宗要』

\*円測1回の引用がみられるが、『瑜伽論記』引用によるもの

8 真円 (-1282-)

①『菩薩戒本持犯要記助覽集』(日本大蔵経22大乘律章疏之餘)(要再整理)

1-元暁-引用多数 - 『菩薩戒本持犯要記』引用多数、『梵網経菩薩戒本私記』2、『楞伽宗要』1、『中辺分別論疏』1、『起信論疏』1、『二障義』1、名及び意3、名及び著述名(『十門和諍論』)1

2-義寂-引用5 - 『梵網戒本疏』、名及び意1

3-太賢-引用5 - 『菩薩戒本宗要』1、『梵網経古迹記』3、『起信論内義略探記』1名及び意2

4-遁倫-引用5 - 『瑜伽論記』

5-円測-引用6 - 『解深密経疏』

6-義湘-名のみ1

9 照遠 (1304-)

①『資行鈔』(大正蔵62)

1-智仁-名及び著述名及び伝1

2-権律師-名及び伝1

3-義寂-名及び意1

4-太賢-引用6 - 『梵網経古迹記』5、不明1、名及び意2

②『梵網経下巻古迹記述鈔』(日本大蔵経41大乘律章疏3)(要再整理)

1-太賢-引用多数-『梵網經古迹記』引用多数、『大涅槃經述記』

『成唯識論古迹記』

2-元暎-名及び引用26-『菩薩戒本持犯要記』

3-遁倫-名及び引用36-『瑜伽論記』

4-勝莊-名及び引用48-『梵網經菩薩戒本述記』

5-義寂-名及び引用318-『梵網經菩薩戒本疏』

6-憬興-引用2-『觀無量壽經疏』

7-円測-引用2-典拠不明

10元輪 (-1278-1287-)

①『表無表詳口抄』(日本大蔵經11戒律宗章疏1)

1-太賢-引用1-『菩薩戒本宗要』

2-遁倫-引用1-『瑜伽論記』

11元休 (-1325-1328-)

①『徹底章』(日本大蔵經13戒律宗章疏2)

1-義寂-引用1-『菩薩戒本疏』、名のみ1

2-太賢-引用1-『梵網經古迹記』

12忍仙 (生没年不詳)

①『律宗行事目心鈔』(大正蔵74) - 新羅諸師引用なし

引用がみられるのは6師14部の章疏であり、引用される新羅章疏で章疏名が確認されるのは

1-円測-『解深密經疏』

2-元暎-『菩薩戒本持犯要記』2、『楞伽宗要』、『梵網經菩薩戒本私記』

『中辺分別論疏』、『起信論疏』、『二障義』

3-憬興-『觀無量壽經疏』、散逸『瑜伽論抄』

4-勝莊-『梵網經菩薩戒本述記』

5-義寂-『菩薩戒本疏』5

6-遁倫-『瑜伽論記』11

7-太賢-『梵網經古迹記』8、『菩薩戒本宗要』6、『起信論内義略探記』

散逸『大涅槃經述記』、『成唯識論古迹記』

以上の7師17部の章疏である。この中で遁倫の『瑜伽論記』が11の章疏に、太賢の『梵網經古迹記』が8の章疏に、『菩薩戒本宗要』が6の章疏に、義寂の『菩薩戒本疏』が5の章疏に引用される。また睿尊の『菩薩戒本宗要補行文集』が太賢の『菩薩戒本宗要』、同じく睿尊の『梵網經古迹記下巻科文輔行文集』が太賢の『梵網經古迹記』、真円の『菩薩戒本持犯要記助覽集』が元暎の『菩薩戒本持犯要記』、照遠の『梵網經下巻古迹記述迹鈔』が太賢の『梵網經古迹記』

の注釈書のため、それぞれ太賢章疏及び元暁章疏を引いて一文解釈を行っている。上で出典に続き（要再整理）としているように正確な引用回数に関して再整理の後に報告することとした。

### (3)真言宗

整理を行った真言宗の戒律関係章疏は次の2師2部である。

#### 1 空海（774-835）

①【梵網經開題】（大正蔵62）（日本大蔵經19大乘律章疏1）－新羅諸師引用なし

#### 2 宥快（1345-1416）

①【梵網經開題鈔】（日本大蔵經19大乘律章疏1）

1-義寂－引用1－【菩薩戒本疏】、名及び意1

2-太賢－引用4－【梵網經古迹記】、名及び意2

3-円測－引用1－【仁王般若經疏】

引用がみられるのは宥快の【梵網經解題鈔】のみで、直接引用が「義寂疏上云」として義寂の【菩薩戒本疏】からの引用が1回、「古迹云」「太賢釋云」として太賢の【梵網經古迹記】からの引用が4回、「西明仁王疏下末梵網文云」として円測の【仁王般若經疏】からの引用が1回みられる。

### (4)真言律宗

整理を行った真言律宗の戒律関係章疏は次の4師8部である。

#### 1 定泉（1273-）

①【三聚淨戒通受懺悔鈔】（日本大蔵經13戒律宗章疏2）－新羅諸師引用なし

②【三聚淨戒四字鈔】（日本大蔵經13戒律宗章疏2）

1-太賢－引用2－【梵網經古迹記】、名及び意6

2-遁倫－引用1－【瑜伽論記】、名及び意6

3-義寂－引用3－【梵網戒本疏】、名及び意2

4-円測－引用1－（典拠不明）1、名及び意3

③【梵網經古迹記下巻補忘抄】（日本大蔵經21大乘律章疏2）（要再整理）

1-太賢－引用多数－【梵網經古迹記】、「成唯識論古迹記」、「菩薩戒本宗要」  
散逸【涅槃經古迹記】、

2-義寂－名及び引用258－【梵網戒本疏】、散逸【無量壽經述記】

3-元暁－名及び引用19－【菩薩戒本持犯要記】、「梵網經菩薩戒本私記】

4-勝莊－名及び引用33－【梵網經菩薩戒本述記】

5-遁倫-名及び引用37-【瑜伽論記】

6-円測-名及び引用10- (典拠不明)

7-憬興-引用1- 散逸【涅槃經述贊】

④【表無表章頭業抄】(日本大藏經11戒律宗章疏1)

1-遁倫-引用5-【瑜伽論記】、名及び意8

2-太賢-引用1-【成唯識論古迹記】、名及び意3

3-義寂-引用1-【菩薩戒本疏】、名及び意6

\*元暁の名及び著述の引用が1回みられるが、【菩薩戒本疏】の引用によるもの

2 英心 (-1309-)

①【菩薩戒問答洞義鈔】(大正蔵74)(日本大藏經13戒律宗章疏2)

1-義寂-引用1-【菩薩戒本疏】、名及び意2

2-太賢-引用5-【梵網經古迹記】、【菩薩戒本宗要】、名及び著述及び意8

3-元暁-引用3-【菩薩戒本持犯要記】2、名及び意1

4-遁倫-引用1-【瑜伽論記】

5-不可思議-引用1-【大毘盧遮那經供養次第法疏】

3 清算 (1298-1362)

①【三宗網義】(日本大藏經15戒律宗章疏3)

1-元暁-引用2-【遊心安樂道】、【菩薩瓔珞本業經疏】、名及び意3

2-義寂-引用1-【梵網戒本疏】、名及び意1

3-太賢-名及び意1

②【梵網經上卷古迹記網義】(日本大藏經41大乘律章疏3)(要再整理)

1-太賢-引用多数-【梵網經古迹記】

2-元暁-【菩薩瓔珞本業經疏】、【梵網經菩薩戒本私記】

3-義寂-【菩薩戒本私記】

4-勝莊-【梵網經菩薩戒本述記】

5-遁倫-【瑜伽論記】

6-憬興-典拠不明

7-円測-【仁王經疏】

4 失名

①【菩薩戒網要鈔】(大正蔵74)

1-義寂-引用2-【菩薩戒本疏】

2-太賢-引用1-【梵網經古迹記】

引用がみられるのは4師7部の章疏であり、引用される新羅章疏で章疏名が確認されるのは



- 1-円測-【仁王經疏】
- 2-元暎-【菩薩戒本持犯要記】 2、【梵網經菩薩戒本私記】 2  
【菩薩瓔珞本業經疏】 2、【遊心安樂道】
- 3-憬興-散逸【涅槃經述贊】
- 4-勝莊-【梵網經菩薩戒本述記】 2
- 5-義寂-【梵網戒本疏】 4、【菩薩戒本私記】、散逸【無量壽經述記】
- 6-遁倫-【瑜伽論記】 4
- 7-太賢-【梵網經古迹記】 5、【菩薩戒本宗要】 2、【成唯識論古迹記】 2  
散逸【涅槃經古迹記】
- 8-不可思議-【大毘盧遮那經供養次第法疏】

以上の8師16部の章疏である。太賢の【梵網經古迹記】が5師に、義寂の【梵網戒本疏】と遁倫の【瑜伽論記】が4師の章疏に引かれる。また定泉の【梵網經古迹記下卷補忘抄】が太賢の【梵網經古迹記】下巻、清算の【梵網經上卷古迹記網義】が太賢の【梵網經古迹記】上巻、それぞれの注釈書のため太賢章疏を大部引用しているため正確な引用回数に関しては先述のように再整理の後に報告することとしたい。

#### (5)天台宗

##### 1 最澄 (767-822)

- ①【頭戒論】(大正蔵74)(日本大蔵經天台宗頭教章疏1)
  - 1-元暎-引用1-【梵網戒本持犯要記】
  - 2-義寂-引用1-【菩薩戒本疏】
  - 3-太賢-引用3-【梵網經古迹記】
- ②【山家学生式】(大正蔵74)-新羅諸師引用なし
- ③【授菩薩戒儀】(大正蔵74)-新羅諸師引用なし
- ④【弘惑袖中策】(日本大蔵經天台宗頭教章疏2)
  - 1-憬興-引用2-不明(散逸の彌勒関係章疏からの引用の可能性有り)
  - 2-義寂-引用1-【菩薩戒本疏】
  - 3-太賢-名及び意2、名及び書名1「太賢戒經之疏」
- ⑤【学生式問答】(伝教全集2)
  - 1-義寂-引用1-【菩薩戒本疏】
  - 2-遁倫-名のみ1
  - 3-太賢-引用1-【梵網經古迹記】、名のみ1

##### 2 光定 (-858)

## ①【伝述一心戒文】(大正蔵74)(日本大蔵経天台宗顕教章疏2)

1-太賢-引用1-【梵網經古述記】

## 3 円仁 (794-864)

## ①【顕揚大戒論】(大正蔵74)

1-寂法師-引用1-【菩薩戒本疏】

## 4 安然 (841?-915?)

## ①【普通授菩薩戒広釈】(大正蔵74)

1-元暁-引用1、先師が引く元暁四教判を独自に変更

2-義寂-引用1-【菩薩戒本疏】

## 5 源信 (942-1017)

## ①【出家授戒作法】(大日本仏教全書33) - 新羅諸師引用なし

## 6 円琳 (1174-)

## ①【菩薩戒儀疏鈔】(大日本仏教全書71)(要再整理)

1-勝莊-引用27-【梵網經菩薩戒本述記】、名及び意

2-義寂-引用70-【菩薩戒本疏】、名及び意

3-太賢-引用112-【菩薩戒本宗要】、【梵網經古述記】、名及び意

4-元暁-引用9-【菩薩戒本持犯要記】、【梵網經菩薩戒本私記】、名及び意

5-円測-引用2-不明

## 7 惟賢 (1284-1378)

## ①【菩薩円頓授戒灌頂記】(大正蔵74) - 新羅諸師引用なし

## 8 仁空 (1309-1388)

## ①【新学行要鈔】(大正蔵74) - 新羅諸師引用なし

引用がみられるのは5師7部の章疏であり、引用される新羅章疏で章疏名が確認されるのは

1-元暁-【梵網戒本持犯要記】2、【梵網經菩薩戒本私記】

2-勝莊-【梵網經菩薩戒本述記】

3-義寂-【菩薩戒本疏】5

4-太賢-【梵網經古述記】4、【菩薩戒本宗要】

以上の4師6部である。この中で義寂の【菩薩戒本疏】が5の章疏に、太賢の【梵網經古述記】が4の章疏に引用される。最澄の著述に元暁・義寂・太賢章疏の引用が数回みられ、その最澄の引用が円仁・安然に影響を与えている感があるが、安然までは新羅戒律章疏の重用度は窺えない。天台宗で新羅戒律章疏に注目するのは、それまで天台宗諸師が引かなかった勝莊の【梵網經菩薩戒本述記】、元暁の【梵網經菩薩戒本私記】、太賢の【菩薩戒本宗要】等を大量に引く円琳からである。

## (6)華嚴宗

整理を行った華嚴宗の戒律関係章疏は、凝然の7部である。

## 1 凝然 (1240-1321)

- ①【通受懺悔兩寺不同記】(大正蔵74)(日本大蔵経13戒律宗章疏2)
  - 1-遁倫-引用6-【瑜伽論記】、名及び意1
  - 2-憬興-引用1-(典拠不明)1、遁倫の【瑜伽論記】引用による1、名及び意3
  - 3-太賢-名及び著述2
  - 4-円測-名及び意2、【瑜伽論記】引用による2
- ②【律宗綱要】(大正蔵74)(日本大蔵経15戒律宗章疏3)
  - 1-義寂-名及び意2
  - 2-太賢-名及び意3
  - 3-遁倫-引用2-【瑜伽論記】
  - 4-元暁-名及び意1、名及び著述「丘龍海東元暁勝鬘經疏」
  - 5-勝莊-引用1-(典拠不明)1、名及び意2
- ③【梵網戒本疏日珠鈔】(大正蔵62)
  - 1-義湘-名及び伝1
  - 2-遁倫-引用11-【瑜伽論記】、名及び意4
  - 3-憬興-引用3-【瑜伽抄】2、【観無量寿経疏】1、名及び意3
  - 4-円測-名及び意4、【瑜伽論記】引用による2
  - 5-元暁-引用44-【梵網経菩薩戒本私記】11、【菩薩戒本持犯要記】3  
散逸【一道義章】2、名及び意
  - 6-勝莊-引用173-【梵網経菩薩戒本述記】
  - 7-太賢-引用140-【菩薩戒本宗要】8、【梵網経古迹記】42、名及び意
  - 8-義寂-引用298-【菩薩戒本疏】199、名及び意99
- ④【雲雨鈔】(日本大蔵経13戒律宗章疏2)
  - 1-智仁-名及び著述2(「大鈔記十卷智仁作」)
- ⑤【太一弁木章】(日本大蔵経13戒律宗章疏2)(新羅諸師引用なし)
- ⑥【律宗瓊鑑章】(日本大蔵経15戒律宗章疏3)(大日本仏教全書105)
  - 1-元暁-名及び著述3
  - 2-勝莊-名及び著述2
  - 3-太賢-名及び著述2
  - 4-義寂-名及び著述2

- 5-憬興-名及び著述 1
- 6-遁倫-名及び著述 1
- 7-智仁-名及び著述 2

⑦【四分戒本疏賛宗記】(日本大蔵經22小乗律章疏 1)

- 1-遁倫-引用 1 - 【瑜伽論記】
- 2-憬興-引用 1 - 散逸【瑜伽抄】

引用がみられるのは6部の章疏であり、引用される新羅章疏で章疏名が確認されるのは

- 1-元暁-【梵網經菩薩戒本私記】、【菩薩戒本持犯要記】、散逸【一道義章】
- 2-憬興-散逸【瑜伽抄】 2、【觀無量壽經疏】
- 3-勝莊-【梵網經菩薩戒本述記】
- 4-義寂-【菩薩戒本疏】
- 5-遁倫-【瑜伽論記】 4
- 6-太賢-【菩薩戒本宗要】、【梵網經古迹記】 4

以上の6師10部の章疏である。

#### 4. 日本戒律関係章疏整理から

##### (1)各宗の研究対象章疏の傾向

引用整理の結果、日本律蔵関係章疏中で高麗僧の名及び章疏を引くものは確認できないが、新羅僧の名及び章疏を引くものを表無表章関係及び四分律関係章疏、菩薩戒関係及び梵網関係章疏に大別することができる。

表無表章関係章疏とは、慈恩大師基の【大乘法苑義林章】表無表章に対する章疏である。法相宗では善珠【表無表章義鏡】・佚名【表無表章頭業鈔】、律宗では叡尊【表無表章詳体文集】・元輪【表無表詳口抄】、真言律宗では定泉【表無表章頭業抄】、華嚴宗では凝然【雲雨鈔】等がある\*1。また四分律関係章疏には凝然の【四分戒本疏賛宗記】がある。これ等の章疏に於ける新羅章疏の引用は、叡尊の【表無表章詳体文集】での遁倫引用を例外として、殆どが1・2回の引用である。

菩薩戒関係章疏で新羅章疏を引くものは、法相宗では良遍【菩薩戒通別二受鈔】、律宗では覺盛【菩薩戒通別二受鈔】【菩薩戒通受遺疑鈔】【菩薩戒本宗要雜文集】・叡尊【菩薩戒本宗要補行文集】【応理宗戒図釈文鈔】【菩薩戒羯磨文釈文鈔】・真円【菩薩戒本持犯要記助覽集】、真言律宗では英心【菩薩戒問答洞義鈔】・佚名【菩薩戒綱要鈔】、天台宗では安然【普通授菩薩戒広釈】・円琳【菩薩戒儀疏鈔】がある。また梵網經関係章疏で新羅章疏を引くものは、法相宗では善珠【梵網經略疏】、律宗では叡尊【梵網經古迹記下卷科文輔行文集】・照遠【梵網經下卷古迹記述迹鈔】、真言宗では宥快【梵網經解題鈔】、真言律宗では定泉【梵網經古迹記下卷補忘

抄]・清算【梵網經上卷古迹記綱義】、華嚴宗では【梵網經本疏日珠鈔】がある。これ等の章疏に於ける新羅章疏の引用は、無表章関係及び四分律関係章疏に比べると引用頻度が高く重用度を窺える。更に太賢の【菩薩戒本宗要】に対する叡尊の【菩薩戒本宗要補行文集】、太賢の【梵網經古迹記】に対する叡尊の【梵網經古迹記下卷科文輔行文集】、照遠の【梵網經下卷古迹記述述鈔】、定泉の【梵網經古迹記下卷補忘抄】、清算の【梵網經上卷古迹記綱義】、そして元暁の【菩薩戒本持犯要記】に対する真円の【菩薩戒本持犯要記助覽集】というように、13世紀中頃から直接的に新羅戒律関係章疏の研究が行われるようになっていく。

## (2)各宗の戒律関係章疏の作製時期と引用頻度の関係

14世紀までの各宗の戒律関係章疏の整理から、各宗共に次のような研究の空白期間があることが確認される。それは、法相宗では善珠から貞慶までの間、律宗では元開から実範までの間、真言宗では空海から宥快までの間、天台宗では源信から円琳までの間という最短で約200年間、最長で約500年間という研究の空白期間である。各宗派共に12・13世紀以降から戒律関係章疏の著述が多くなるが、12世紀以前の戒律関係章疏に新羅諸師章疏の引用が少なく引用があってもその頻度が少ないこと、12世紀後半からの戒律関係章疏に新羅諸師章疏の引用が多いこと、13世紀中頃から新羅戒律章疏に対する注釈研究がなされ中国諸師章疏の引用を凌駕する程になっている等が確認される。

また各宗派の戒律関係章疏で新羅僧の名及び章疏の引用がみられないものとして、法相宗では貞慶【戒律興行願書】、南都叡山戒勝劣記】・良遍【菩薩戒別受行否鈔】、通受軌則有難通会抄】、律宗では法進【東大寺授戒方軌】、沙弥十戒威儀經疏】・豊安【戒律傳來記】・元開【鑑真過海大師東征伝】・実範【東大寺戒壇院受戒式】、出家授戒法】・俊苧【律家円宗料簡】・覚盛【七仏略戒經】、釈迦十二礼】、律宗新学作持要文】・叡尊【律宗作持羯磨】、齊別受八戒作法】・忍仙【律宗行事目心鈔】、真言宗では空海【梵網經開題】、真言律宗では定泉【三聚淨戒通受懺悔鈔】、天台宗では最澄【山家学生式】、授菩薩戒儀】・源信【出家授戒作法】・惟賢【菩薩円頓授戒灌頂記】・仁空【新学行要鈔】、華嚴宗では凝然【太一并木章】などがあるが、それ等の著述の殆どが受戒・授戒作法に関するもので、律典及び經典以外の引用があまりみられないものである。

## 5. 小結にかえて今後の課題

新羅仏教認識だけではなく、日本各宗の高麗仏教認識をも窺うことを目的としたのであるが、14世紀までの活版印刷化された日本各宗の戒律関係章疏中には高麗章疏を引くものは皆無であった。印刷化されていない写本まで整理対象としても同じような結果となる可能性を感じるが、今後の課題の一つとしたい。

新羅章疏については各宗共に初期から引いているが、先述のように12世紀以前の印刷化され

た章疏の整理による限りでは重用度は窺えず、12世紀後半からは新羅章疏の引用頻度が高くなり、また太賢章疏や元暁章疏の研究がみられ新羅戒律章疏への注目度が高くなることが窺える。これは先ずは太賢章疏・義寂章疏の重要性に注目した天台宗の円琳の存在があり、次いで戒律復興を任とした覚盛・叡尊、そして義寂章疏・勝莊章疏・太賢章疏等を大量に引き、新羅戒律章疏研究の必要性を指摘した凝然の存在が大きいものと推測できるが、それに関してはそれら諸師章疏の詳細研究、及び江戸末までの各宗の戒律関係章疏の整理の後に論じてみたい。

尚、本発表は平成一八～平成二一年度科学研究補助金基盤研究(C)「十二世紀末までの日本各宗にみられる新羅・高麗仏教に対する認識に関する研究」(課題番号一八五二〇〇四五)による研究成果の一部である。

### キーワード

日本律蔵関係章疏 新羅仏教認識 新羅戒律章疏 日本各宗 新羅諸師

---

\* 1 表無表章関係章疏としては最行(-1087-)の『法苑義林章集解』(日本大藏経11戒律章疏1)もある。

最行に関しては所属宗派が不明であるため整理対象とはしなかったが、「寂云」として義寂の『梵網戒本疏』からの引用、「寂補闕云」として義寂の散逸『大乘義林章』からと思われる引用、「太賢云」として太賢の『梵網経古迹記』からの引用がみられる。特に義寂に関しては40回以上の引用が確認される。